

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 24 日現在

機関番号：13901

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24720253

研究課題名(和文)日本人海外子女の英語運用能力習得プロセスにおける基礎研究

研究課題名(英文)Fundamental research of English acquisition process of Japanese children overseas

## 研究代表者

岩城 奈巳 (Iwaki, Nami)

名古屋大学・国際教育交流本部・教授

研究者番号：50436987

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は海外子女が渡米後海外子女がどのようなプロセスを経て英語を身につけていくかという「英語習得過程」に着目し時期と年数によって習得される英語(英単語、文法、表現方法の習得順序等)を英語学習状況についてのアンケート及び海外子女による英作文を通して調査した。調査は海外子女の通う日本語授業補習校にて実施、アンケートは滞在歴、渡米時の年齢の他、英語使用状況を調査する上で分析に必要と思われる20-30項目(英語及び日本語学習環境に関する質問、現地コミュニティとの接点に関する質問、生活面での質問等)を調査した。さらに英作文「What is your hobby?」を執筆させ産出している英語を検証した。

研究成果の概要(英文)：This research focused on how Japanese children living overseas (in English speaking countries, in this case, U.S.) acquire English through a questionnaire and an essay. The research took place at Japanese Saturday schools which are for Japanese children who attend local schools on weekdays to keep up with their Japanese language and also Japanese school curriculum on Saturdays. The questionnaire was made of 20-30 questions asking their English as well as Japanese learning environment, such as how many hours they spend watching TV program in Japanese, how many hours they spend corresponding with friends in Japan, whether they enjoy local schools, how many friends they made, what they worry about at local schools, and so on. The students were also asked to write an essay in English titled "what is your hobby?" and observed how many words they can produce, what kind of English they use to write the essay.

研究分野：第二言語習得

キーワード：海外子女 英語習得

## 1. 研究開始当初の背景

海外子女の英語習得についてはこれまでに、英語習得順序、海外子女における「バイリンガル」の定義、英語習得環境とその要因等について研究されてきた。英語習得順序は、習得時期に基づいた2つのバイリンガルの分類：同時バイリンガル(生後直後より、2つの言語に接して習得していくバイリンガル)と、継続バイリンガル(2つの言語に接する時期にずれがある)があげられ、海外子女は後者の継続バイリンガルであると言われている(服部, 2006)。また、バイリンガルの定義(Cummins, 1979)、プロフィシエント・バイリンガル(どちらの言葉も年齢に応じてよくできる)、パーシャルバイリンガル(どちらかの言葉だけが年齢に応じたレベル、もう一つの言葉はそこまで達していない)、そしてリミテッドバイリンガル(どちらの言葉もある程度は理解できるが、年齢に応じた発達をしていない)から、海外子女は、パーシャルバイリンガルである確率が最も高いことが明らかになっている(片岡, 2008)。また、海外子女の英語習得には、滞在年数、渡航年齢、他の日本人との関係(現地校、住んでいる地域等)、家庭での使用言語、家族構成(兄弟の有無)、学習環境、インターネット使用状況、メディア、日本との関係など、さまざまな要因が関係していることも明らかになっている(片岡, 2008)。

一方で、海外子女が渡米後、どのようなプロセスを経て英語を身につけていくのか、という、語学習得過程についての研究は、現在までほとんど実施されていない。渡米年齢、滞在年数によって習得可能・使用可能な英語表現や文法知識などは異なってくると予想されるが、その習得過程についての調査は実施されていない。そこで、本研究は、継続バイリンガル、そして、パーシャルバイリンガルと定義されている、海外子女がどのようなプロセスを経て英語を身につけていくか、という「英語習得過程」に着目し、時期と年数によって習得される英語(英単語、文法、表現方法の習得順序等)を、英語学習状況についてのアンケート、海外子女による英作文、そしてアンケートのみでは計ることのできない、量的な側面を、海外子女宅を訪問し、両親を交えたインタビューを通して調査した。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、北米在住の日本人海外子女の英語習得過程に着目し、海外子女の産出する英語表現や語彙を、年齢、滞在年数、学習環境等と比較し、明らかにすることを目的とする。具体的に、1)第二言語である英語習得の過程、及び2)滞在年数・滞在時期が英

語表現産出に与える影響を明らかにする。

## 3. 研究の方法

**調査方法**：本研究は、海外子女へのアンケート及び海外子女による英作文作成、そして海外子女の家庭へのインタビューを通して調査した。これらの調査は、在米日本語補習授業校および、海外子女の家庭を訪問しておこなった。

**アンケート**：年齢、滞在歴、渡米時の年齢の他、英語使用状況を調査する上で分析に必要と思われる項目(英語学習環境に関する質問、日本語環境に関する質問、現地校・現地コミュニティとの接点に関する質問、生活面での質問など)を調査した。

**英作文分析**：滞在年数・時期が英語表現産出に与える影響についての調査を、英作文を通して分析する。設定時間内に、英作文「What is your hobby?」を執筆させ、産出している英語を検証した。

**インタビュー**：海外子女家庭を訪問し、アンケートでは計ることのできない質的な面(家庭での語学使用環境、学習環境、日本との接点等)の検証をおこなった。インタビューは了承を得て、すべて録音した。

**事前調査**：昨年度、今回の調査の可能性を検証するため、ケンタッキー州にあるセントラル日本語補習授業校に依頼し、12名を対象とした調査をおこなった。規模は小さいが、この調査にて、海外子女の年齢や滞在年数によって、使用する英語の運用・産出が異なることが判明した(結果は2010年度外国語教育メディア学会中部支部秋期支部研究大会にて発表)。

## 4. 研究成果

海外子女の英語習得過程の調査について、調査事例が少ない要因の一つとして、日本国内にいる帰国生と比べ、海外子女に関するデータの入手そのものが困難であることが理由としてあげられる。まず、個人情報保護の観点より、第三者が安易に日本語補習授業校へ出向いてデータを収集することが極めて困難な点にある。研究代表者は、小学校から高校までアメリカの2つの州にて生活し、日本語補習授業校に通っていたため、現在も日本人コミュニティと強い関係があり、調査受け入れの許可が出た。本研究にて収集した海外子女へのアンケートの分析は以下の通りである。まず、以下の日本語補習校にてアンケート調査をおこない、195名のデータを収集することができた。

デトロイト日本語補習校  
シンシナティ日本語補習校  
バトルクリーク日本語補習校  
コロンバス日本語補習校  
ケンタッキー日本語補習校

まずはアンケート結果にて得た情報を紹介

する。

(1) 男女比率は 120:73 で、学年は中学 1 年生 61 名、2 年生 45 名、3 年生 27 名、高校 1 年生 22 名、2 年生 11 名、3 年生 10 名であった。また、滞在年数は到着したばかりの生徒から産まれてすぐ渡米した生徒もいるため、数ヶ月から 10 年以上とかなりのばらつきがあったが、平均は 5.3 年であった。また、195 名のうち、現在生活している州以外の米国の州を含む他の外国で暮らしたことがある生徒も 73 名いた。

(2) 学校生活について

まず、現地校での生活について以下の問いをした。現地校は楽しいか、の問いに関しては、とても楽しい 28.2%、楽しい 36.4%、まあまあ楽しい 26.2%で、あまり楽しくない・楽しくないと答えた生徒は 7%にとどまった。また、現地校での友達に関しても、たくさんできた 2%、まあまあできた、は 84%と、あまりできない、の 9%を大きく上回った。一方、よく遊ぶのは日本人か米国人かの問いには、日本人との回答が 60.5%に対し、アメリカ人は 21%にとどまった。同じくらいと答えたのは 15.4%であった。

(3) 英語学習について

学習生活に関しては、家庭教師がいる、又は昔いた、との回答が 60%を超えた。現地校が難しいと感じている生徒は 33.9%、普通が 56.4%、簡単と答えたのは 8%にとどまった。また、日本語と英語の学習難易度については、66.2%は日本語が簡単、英語が得意と答えたのはわずか 16%であった。英語自体の難易度に関しては、とても難しいが 22%、難しいが 27.2%、普通は 37.4%、簡単と答えたのは 22%であった。また、上手くなりたいか、との問いにはとてもそう思う、そう思う、を合わせると 75%を超えているが、十分できるので思わないと答えた生徒も 12%いた。

(4) 日本語との接点について

英語習得はどの程度日本語との接点があるか、ということも大きく左右するため、以下の質問を行った。インターネットで日本語にどれくらい触れているかについては、とてもよく見るが 56.9%、時々見るが 26.2%、あまり見ない、全然見ない、は 15%にとどまった。また、日本のテレビについては、とてもよく見るが 47.7%、時々見るが 31.8%、あまり見ない、全然見ないは 18.5%であった。さらに、日本の本についても、とても良く読む、よく読むが 75%、あまり読まない、全然読まないは 22%であった。

以上の結果を踏まえ、生徒は現地校での学習については難しいとは思っているが、英語学習そのものはそこまでの負担には感じていないようであった。また、友達の有無についても、現地校で日本人以外の友人もたくさんいる、との解答率が 84%を超えているところを見ると、友人作りにさほど苦労はしていないようである。一方、よく遊ぶ友人に関しては、日本人の方が多く、現地校では米国人、

学外では日本人である傾向をみることできた。

(4) 次に、生徒が書いたエッセイについて、紹介する。エッセイは、先に紹介したように、趣味について自由形式に書く形をとった。以下は順番に、米国滞在 1 年未満 ( )、3 年 ( )、5 年 ( )、10 年 ( ) の生徒のエッセイを紹介する。なお、誤字脱字のまま記載する。

I like to play basketball and tennis and ski, Because I had learned both in Japan. I have a mini pro basket goal and mini basketball in my house. So I'm practicing basketball shoot with my father. Half of the time I can get more point than my father I will feel very happy. I have a my Japan of the tennis racket. So I'm playing tennis with my father. My father played tennis at high schools students. He teaching me tennis many. He said "I'm feeling fun and happy, if I play tennis with you !!"

My hobby is to perform and entertain in front of people. I used to do ballet, cheerleading, gymnastics, and rhythmic gymnastics when I was young. I loved to perform all of them and it made me feel so happy when audience cheered or crapped for me. I do colorguard as an extracurricular activity in high school. Colorguard is a part of marching band, and people in colorguard usually spin flag, rifle, sable, or dance to perform. MY high-school marching band is really big and famous in Kentucky, so a lot of people come and watch us performe during the marching band season. I get nervous whenever I performe for public, but it is always fun at the same time. I love when I do my work perfectly, because I feel proud of myself from working so hard everyday at practice.

My hobby are tennis, read books and drawing. The tennis is my favorite sport, and I play it. This year I play doubles 1. I steel play tennis after back to Japan. Next one is read books. I like read book. I don't care Genre, History, novels, mythology, or poems, etc. Now, I reading novels. It's Fate/zero. That are can understand easy to mythology. Last one is drawing. I will drawing all kind of draw, it like water painting, oil painting and design. I like to think create something. There are mu favorite hobbies.

Growing up, I had always had a passion for art-drawing, painting, and constructing. During my freshman year of high school, I feel in love with another form of art. That was the art of photography. My grandmother's brother was a photographer so I had always had a connection with it but had never gotten involved. However, that all changed when I took the class and how it is large part of my life. I also like to write but with photography, it gives me a new form of expression without words. I like to take pictures of architecture and street life as well as nature and people.

から までの表現の多くは、JEFLL コーパス(日本の中学・高校生英語学習者による自由英作文コーパス)と比較した結果、海外子女が使用している表現や単語は、ほとんどの EFL 学習者では使用されていないということが判明した。例：I love to do... (ballet), I do... (colorguard), during my... (Freshman year), Growing up, how it is...(large part of me), really big など。また、英作文は、EFL 学習者に比べ、表現が豊かで正確さは見られたが、話し言葉の影響が及ぶ可能性があること (because, so, but, like の多用) また、その影響の結果として、書き言葉としては論理的ではない作文が産出されていることが判明した。生徒の米国滞在年数に限らず、どのエッセイを読んでも、生徒がこちらに語りかけてくるような印象を受けるのも大きな特徴である。これは、通常の EFL 学習者からは到底感じる事ができないスタイルである。

現在の教育現場では、より実践的な英語、すなわち、「生きた英語」が積極的に導入されており、実際に現地にて生活し、「生きた英語」を学んでいる海外子女の英語習得過程を知ることは、日本で学ぶ学習者にとっても大きなメリットとなると考える。今後、本結果を更に分析し、結果を基に今の英語教育に一石を投じることができると考える。

#### 5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 件)

〔学会発表〕(計 1 件)

岩城奈巳, 阪上辰也. 「日本人海外子女の英語運用能力プロセスにおける基礎研究」, 外国語メディア研究中部支部, 2010 年.

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ  
<http://www.japannewsclub.com>  
講演 5 回

#### 6 . 研究組織

(1)研究代表者

岩城奈巳 (IWAKI Nami)  
名古屋大学・国際教育交流本部・国際教育交流センター・教授

研究者番号：50436987

(2)研究分担者 なし  
( )

研究者番号：

(3)連携研究者 なし  
( )

研究者番号：